

会 議 要 録

会 議 名		平成 28 年度第 2 回 小平市青少年問題協議会
日 時		平成 28 年 8 月 26 日（金）午後 1 時 30 分～午後 3 時
場 所		小平市役所 庁議室
出席者 等	委 員	9 名（欠席者 7 名）
	事務局	子ども家庭部長、家庭支援担当課長、健康推進課長、教育施策推進担当課長、地域学習支援課長、子育て支援課子ども・若者支援担当係長
傍 聴 人		0 名
会議 内容	1 開 会 2 議 事 （1）小平市子ども・若者計の意識・実態調査の調査概要について （2）平成 28 年度の青少年に関する主な事業の概要について 3 情報交換・意見交換 4 その他 5 閉 会	
配付 資料	会議次第・席次表 資料 1 小平市子ども・若者の意識・実態調査の調査概要 資料 2 子ども関係アンケート調査概要比較 資料 3 小平市子ども・若者の意識・実態調査スケジュール 資料 4 小平市の教育に関するアンケート調査 設問項目（案） 資料 5 小平市の教育に関するアンケート調査への追加設問項目（案） 資料 6 平成 28 年度 健康推進課 青少年関連事業概要 資料 7 薬物乱用「ダメ。ゼッタイ。」（リーフレット） 資料 8 こだいらの小・中連携教育 資料 9 「いじめゼロ」に向けた小平市の取組 資料 10 平成 28 年度 地域学習支援課 青少年関連事業概要 ・こころの東京革命	

○ 会議内容等についての意見・質疑応答

1 議事

(1) 小平市子ども・若者の意識・実態調査の調査概要について

委 員 資料 1 の調査概要の 2 (4) の対象者数について、合計 3,000 人の中に関係者が含まれているのか。

事務局 対象者数の合計 3,000 人については、関係者は含まれていない。

委 員 3,000 人を対象として、前回程度の回収率を見込んでいるのか。

事務局 小・中学生については、教育委員会が実施する調査に委ねるため、100%近い回収率を見込んでいる。前回調査時の高校生 2 年生等では、35.1%の回収率であったが、16 歳から 29 歳までの回収率は厳しいものになると思われる。統計上信頼性がある標本数が約 380 といわれているので、前回より対象者を増

やしている。

委 員 資料5の設問27について、以前は学校でも家族状況を聞いていたが、最近は個人情報の関係で聞けなくなっているため、答えられる人だけに限定してほしい。

事務局 無記名で回答していただくため、個人を特定されるようなことはないが、教育委員会と調整し検討する。

委 員 資料5の設問33について、「29歳くらいまでの若い人」の意味は。

事務局 10代、20代といった表現も検討したが、計画の対象が29歳までであるため、具体的に記述した。また、「若者」とすると、個人で解釈が異なることもあるため、違和感を与えるかもしれないが、具体的にイメージできるように考えた。

委 員 設問意図を見ると、家族・大人・地域との関わりに焦点が当たっているが、友達についてはどうか。

事務局 資料4の教育委員会が設定する設問項目（案）に友達に関する設問や回答の選択肢があることから、追加の設問には入っていない。

委 員 16歳以上へのアンケート調査では、友達に関する設問を設けるのか。

事務局 16歳から29歳までのアンケート調査票については、まだ設問の検討段階で、白紙の状態である。小・中学生の友達観と比較できるように盛り込めるか検討する。

委 員 友達や先輩、後輩等との人間関係について、どのように感じているのかといった設問もいれてみては。

委 員 資料4の問17は、先生との関係を聞いているのだと思うが、前回実施時と同じ設問か。

事務局 資料4は、平成23年度に教育委員会が実施したアンケート調査の項目を現段階の案として提示している。今年度実施する調査項目は、教育委員会で検討中である。

(2) 平成28年度の青少年に関する主な事業の概要について

委 員 先程のアンケート調査に関係して、対象者が29歳までということだが、既婚者や未婚者を分けて抽出しないのか。

事務局 抽出は年齢で行うため、既婚者か未婚者かはわからない。子ども・若者計画は結婚や出産を促進させる施策を内容とするものではないので、既婚・未婚を問うような設問は現段階では考えていない。

2 情報交換・意見交換

委 員 7月1日から社会を明るくする運動強調月間となっている。駅頭で宣伝活動をしている。今回8つの中学校のうち6つの中学校から50人を超す参加者があった。本日、小平第六中学校の地域活動部で、小平の歴史と農家の実態を知りたいということで、2時間程度12人の生徒に地域の話をした。地域と密着する関わりも重要であると感じた。

- 委員 小平第十四小学校で学校支援コーディネーター世話人をしている。本日の午前中に仲町テラスで、絵手紙講座に手伝いとして参加した。講師の方は、習字と絵手紙との違いについて、習字は手本があってそれに近づけて自分なりに解釈して書いていくもの。絵手紙は、書いた人そのままをそこに表現すればよく、見た人は評価するのではなくそのまま受け入れるものであるとおっしゃっていた。お手本がないということも、すべて自己肯定感につながることで感じた。子どもたちには体験が必要だと感じた。
- 委員 10月1日に小学校で運動会を実施する。小学生の様子があるので見に来ていただきたい。小・中連携教育の取組として、昨日市内の小・中学校の先生が中学校区ごとに集まって、情報交換を行った。
- 委員 夏休みの中学校では、3年生にとって最後の部活の大会があった。市内中学校では、全国大会で優勝したところもあった。学校がいろいろなチャンスを子どもたちに与えられる場になればと思う。
- 委員 都立高校は地域と距離を置いた存在となりがちだが、小平高校では、小・中学校と連携している。小平第十四小学校の子どもたちとは、スポーツ交流会を年間2回、小平第二小学校の子どもたちとは音楽発表会を行っている。また、小平第一中学校の校長と情報交換をしている。
- 委員 ふれあい広場の相談員をしている。広場に来ている中の若い人から、10年前の自分は子どもは元気があればいいと思っていたが、親になってみるとしつけについてや親としていろいろな思いがでてきて、自分の親の気持ちがわかった、ということ聞いた。親となった29歳までの人と、それ以外の人とでは、アンケートの回答が違ってくるのではないかと思う。
- 委員 平成28年度上半期の犯罪の状況について、すべてにおいて減少傾向にあるが、特徴的なのは小学生の犯罪行為が増えていることである。小学生が万引きをして警察署に連れてこられることが多くなってきている。アンケートに関連して、法律やルールを守る規範意識の醸成などについて家庭で話をしてもらいたい。
- 委員 7月23日に青少対の納涼祭を行った。幅広い年齢層のたくさんの方に来ていただいた。模擬店の出店において、子どもの出店も許可したが、大人が見ていないところもあり、トラブルが起きかねないと感じた。今後改善していきたい。
- 委員 最近の大学生は、とてもまじめでよく勉強するが、なにか物足りない気がする。最近の若者も、とてもいい子になってきていて、大人がかんばってきた成果だと思うが少しぐらい息抜きをしてさぼってもいいのではと思う。ホッとHOTこだいらファミリーデイ事業は、子どもに視点を当てたものだと思うが、若いお父さんやお母さんにも視点を当ててみたらいいのではと思う。